



第 390 号 平成 23 年 1 月 1 日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町 601-1 こどもみらい館 2 階

T E L (075) 256-0351

F A X (075) 241-3568

発行人 奥村正治

## 新年のご挨拶

会長 奥村正治

平成 23 年の新春を迎え、会員の皆様方に心よりお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

さて、本年は？と申しますと、当学校医会にとっては大変な 1 年であります。5 月 22 日（日）に第 62 回政令指定都市学校保健協議会が、左京区の岡崎京都市勤業館（みやこめッセ）で開催されます。平成 21 年 11 月に準備委員、一昨年 2 月に第 1 回の実行委員会が開催され、何回かの実行委員会、部会等々の会議が行なわれ、着々と準備が進んでおります。どうぞ当日には大勢の学校医の先生方のご参加をお願い申し上げます。

この政令指定都市学校保健協議会の第 1 回は本市、京都市で行なわれたと聞いております。100 年の歴史をもつ京都市学校医会ならでは・・・と思います。

現在は、政令指定都市の数がどんどん増加し、皆様いくつになっているかご存知でしょうか？北からならべてみますと、札幌・仙台・さいたま・千葉・横浜・川崎・相模原・新潟・静岡・浜松・名古屋・京都・大阪・堺・神戸・岡山・広島・北九州・福岡の 19 都市になりました。この学校保健協議会も、13 大都市学校保健協議会と呼称していた時代もありましたが、政令指定都市の増加に伴い数字を入れにくいとなったのでしょうか。現在ではいくつの政令指定都市になってもいい様に呼称も変更されました。前回は、13 年前請田安央先生の会長の時に京都が当番でした。6 巡目と聞いております。

又、前日の 5 月 21 日（土）には、政令指定都市の学校医（内科系、眼科、耳鼻咽喉科）の集まりが、府医主催で、京都からすまホテルで開催される事にな

っております。どうぞ学校医の先生方、両日になりますが、本年は 5 月 21 日（土）と 22 日（日）は、ご予約を空けていただき、この政令指定都市の協議会にご参加いただきたいと存じます。

本年も学校の統合が行なわれます。児童・生徒の減少により、京都市の小中学校が減る一方です。地区は東山です。小学校は、白川・新道・六原・清水・東山 5 校が、中学校は、洛東・弥栄の 2 校が、開晴（かいせい）小中学校として（洛東中学校・六原小学校跡地に）開校されます。小学校 1 つ、中学校 1 つの位置づけですが、必然的に校医の先生のクビが出てまいります。「校医は非常勤職員です。」の一言でクビはしのびません。

どの先生方も日常のご診療のあい間をぬって、地域医療の一役という事で、ご就任いただき、ご活躍いただき、学校の都合で「はいクビです。」は、大変申しわけない状況と思っております。これも非常勤の非が意味するもののでしょうか？校医の定年制も 75 才で区切られてはおりますが、この話題も教育委員会から出た話題です。新校、児童・生徒の増加等で、校医の増員も指示されますが、定年制が引かれた以上、校医の身分の保証も教育委員会もちょっとお考えいただきたいと思うのです。24 年には南区、〇年には東山区と次から次へと計画は進んでいる様です。

校医の先生方にご苦勞をかけない様に。とは思っておりますが、本年もどうぞ、叱咤、ご指導、ご教示お願い申し上げます。新年早々、愚痴めいたご挨拶になり申しわけございません。

## 新年のご挨拶

京都府眼科学校医会会長 原山 憲治

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては本年も良い一年になりますようお祈り申し上げます。

眼科医会が昨年度も取り組んできた学校保健の重点項目は、近視の増加など屈折異常に関わるもの、コンタクトレンズの取扱不備等による眼障害、色覚検査が定期健康診断の必須項目から除外されたために生じた進学・就職時の問題などであります。いずれも例年同様のものですが、特に近視や遠視などの屈折異常は眼疾患であることから眼科専門医による管理が大切で、眼鏡やコンタクトレンズの購入で安易に解決してはいけない問題であります。眼科学校医だけでなく内科学校医、養護教諭をはじめとする学校関係者と連携して児童生徒の屈折異常の正しい取り組みを啓発しなければならないと考えています。

昨年3月に文部科学省から各都道府県の教育委員会など関係者に通知がありました。これは、幼稚園・保育園と就学時の健康診断における視力検査ならびに健康診断について、学校保健安全法等に定められているにもかかわらず、その実施が全国的に確実に守られていないとの日本眼科医会からの指摘ならびに要望に応じて、文部科学省が改めて法律を順守するように通知したものです。私ども眼科医会はこの通知を重視するよう京都府教育委員会に要請し、

その結果京都府内における就学時健診の際の視力検査については次年度よりほぼ全ての学校で行なわれる予定となりました。就学時の視力検査は斜視弱視の発見に必須であり、治療の面でも6歳以降に訓練しても効果が低くなると言われています。小児眼科医療において極めて重要なこの時期に検査を漏れなく行い、眼科医療機関を受診するよう指示を与えることによって、目の病気に気づかずに就学を迎えるという不幸な状態を避けることができるようになればと願っています。

一方、幼稚園や保育園の定期健康診断における視力検査の実施率は低く、さらに眼科専門医による眼科検診の実施はかなり低いことから、児童が必要な眼科の治療を受けて就学を迎えられるよう検査の実施率を高める努力が必要です。学校保健安全法等の法律で定められた視力検査や専門医による眼科検診が完全に実施されるよう府市の教育委員会などに申し入れています。学校医会の先生方にもご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私ども眼科学校医はその専門性を生かした活動をおこなうことにより、京都市学校医会の先生方と協力して学校保健の向上に貢献できればと考えていますので、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

---

## 新年のご挨拶

京都府耳鼻咽喉科学校医会会長 豊田 弥八郎

新年明けましておめでとうございます。

日ごろ学校における児童生徒たちの健康管理にたずさわっておられる学校医会会員の皆様におかれましては、今年も新たなお気持ちと新しい年に向かっての新たな目標をそれぞれに持たれて新年をお迎えることと思います。

少子高齢化社会の中で、子供たちの健全な育成はより一層重要な社会的課題となり、今日の政治と経済の混乱・困窮がどんなに続いても、この課題は必

ずや解決し、達成されなくてはならない目標であります。少ない子供たちを、未来へむかって大切な鍵を握っている子供たちを、誤ることなく心身ともに健全に育成することは教育の大目標です。微力ながら、私たちが耳鼻咽喉科医としての立場から、主に、身体の健全な育成を目標に、学校現場の方々たちとともに努めたいと思います。本年もよろしく願いいたします。

## 第30回京都市小学生駅伝競走記録会

福西小学校医 奥村正治

12月5日(日)に鴨川の河川敷、出雲路橋・葵橋周回コースにて行なわれた。当日は12月というのに、ちょうど運動会が開かれる「秋晴れの良き日」そのものという、雲1つない(ほんとうに雲がありません)晴天の日に行なわれた。午後2時頃になって雲が少し出て来るというお天気でした。気温は、午後で18.5℃ぐらいで、「少し暑いなあ」という状況での駅伝でした。京都の小学生の駅伝と云えば大文字駅伝が有名であるが、その歴史はこの鴨川の駅伝の方が古い。当日の委員長北村明彦先生の挨拶の中で「ちょうど30年前に、本日の選手のお父さんかお母さんが第1回の鴨川駅伝で走られた方もおられるのでは?・・・」という話がありました。30回を迎えた事になる。

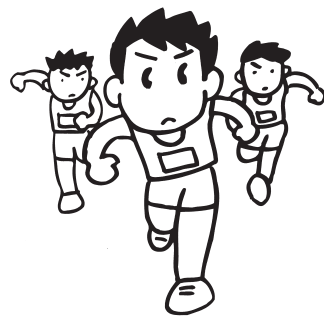
今回も5人が1チームとなり(男子チームと女子チームに別れます)1周約1700mをたすきをつなぎ、タイムを競うことになる。エントリーチーム等は、参加校138校(全小学校の76.3%)男子1504名、女子1186名(5の倍数にはならないが3人チーム、4人チームで走っている)の2690名が参加している。結果は、男子 久我の社小学校29分54秒、女子は嵯峨野小学校30分42秒が、それぞれの1位であった。大文字駅伝の前哨戦としたいところだが、10年ほど前の西京区の小学校が上位を占めていたという状況はなく、色々の地区にちらばっている。何回か大文字駅伝の優勝を経験した福西小学校の校医としては少しさびしい現状である。だが、上位10位のチームの中に、男女とも入賞している学校は6チームある。この中から大文字の優勝チームが生まれるのでしょうか?

どなたかの挨拶であったのですが、陸上競技の大半は個人競技で、「この駅伝とリレーが、仲間とのつながりが、大切な競技である。」という話があり、選手は仲間の事を考え、走らなければならない種目の競技である事を忘れてはならない。又、お手

伝いする我々も再度思いなおす必要がある事を再確認させられた日であった。

我々の仕事は、当日の医務班であるが、当日医務テントを訪れた児童の方は9名で、6名は競技中やその他の時間でころんだ方で、擦過傷でした。他の3名の内1名は、走行中に右膝部の痛み、膝内側靭帯の損傷の疑いと、もう1人は、木の枝が、眼にあたり、眼検下部の切傷であり、レンズの損傷の有無の為、眼科受診をする様に指示をしたケースがありました。又、2回目ですと云っていましたが、過呼吸になり呼吸困難を云ってきた女子もあり、過呼吸を起した児童の事前指導も大切と思われた。

今回は「本年で定年になるので、1回出ますわ。」と耳鼻科校医の星谷先生が、医務班で出動していただきました。下肢の擦過傷の児童の消毒の足持ちを率先してやっておられ、頭のさがる思いでいっぱいでした。何々出来る事ではありません。見習う事が多々ありました。星谷先生おつかれ様でした。ありがとうございました。



## 第59回近畿医師会連合学校医研究協議会

会 長 奥 村 正 治

平成22年11月28日（日）午前10時30分より、兵庫県医師会の当番で近畿医師会連合学校医研究協議会が兵庫県医師会館にて開催された。会の総会も兼ねており、物故会員の報告、会務報告、永年勤続学校医表彰等が行なわれ、近畿の各府県より1題ずつの研究発表があり、京都府より眼科学校医の柏井真理子先生（府医学校医担当理事）の「京都府内の就学时検診（眼科）の現状について」と題して特に府下の様子をお話していただきました。幸いにも京都市においては眼科先生方の御努力により、十分の検診が済まされ、市内の者に取ってはどこ吹く風という感じですが、他府県同様、府下においては眼科検診は大変の様である。眼科の先生の総数が少ない為に行なわれていない様である。教育委員会を通してのアンケートによると眼科医による眼科検診は19%という数字になっている。

又、日本医師会常任理事学校医担当の石川広己先

生の話しによると、学校における結核検診と云う事で毎年春に紙の記録式による検診で、始まってから5年が経過し、その結果報告を聞いたが、同じ5年間で、学校の生徒・児童の結核患者発見は316名に対し、紙の検診で見つかった結核患者はたったの19名であったとの報告で、そのうち、まんえん国からの帰国と家族内結核発生からのり患率が、半数ずつという事になり、真の結核患者発見の役割りはなしていない事がはっきりした。ゆくゆく中止になるという話しであったが、それにしても早く中止してほしいものだと感じました。

特別講演は国立病院機構三重病院の藤澤隆夫先生による「小児喘息の standard of care と残された課題」と題して話しがあった。三重県では「児童・生徒のアレルギー疾患対応の手引き」の三重版を作り、学校では三重版で対応しているとの話しであった。

### 謹 賀 新 年

平成23年 元旦

会 長 奥 村 正 治  
副 会 長 林 鐘 声  
“ 竹 内 宏 一  
専務理事 井 本 雅 美  
常任理事 藤 田 克 寿

常任理事 東 道 伸 二 郎  
“ 福 持 裕  
“ 大 久 保 秀 夫  
“ 杉 本 英 造

京 都 府 眼 科 学 校 医 会 理 事 佐 野 貴 之

京 都 府 耳 鼻 咽 喉 科 学 校 医 会 理 事 星 谷 徹 鈴 木 由 一